

令和5年度「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書
委託先（長野県）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	自分も友だちも大切にする児童の育成 ～見つめよう自分を、つながり合おう友だちと～
----------	---

○調査研究のテーマを設定した目的

本校は、各学年10名前後的小規模校である。幼少期から共に過ごしていることから、日常的に学年を越えた自然なかかわりが多く見られる。そのよさをいっそう伸ばそうと計画的に位置付けている縦割り班活動でも、上級生の下級生への思いやりのある行為や上級生を慕う下級生の姿がたくさん見られている。また、日々の授業では「学び合い」の学習に入れ、互いに教え合ったり意見を交流したりする姿がある。さらに、年2回設けている「なかよし旬間」では、学級内だけでなく学年を越えて交流する中で、互いのよいところを伝え合う機会を設けている。また、同和問題については、学年に応じた豊富な資料を活用したりすることで、継続的に学んでいるため、子どもたちが差別について真剣に考える姿が見られている。

しかしその一方で、限られた人数での生活で、人間関係が固定化されがちなところがあり、自分に自信を持てず周りに合わせようしたり、相手を固定的なイメージで見て厳しい言葉をかけてしまったりと、互いを尊重し共によりよく行動しようとする態度に課題を感じている。

そこで、日頃の授業や生活の中で幅広い人権課題に触れ、それらと向き合うことを通し、自己を見つめ、自分のよさに気付き高めようしたり、友だちの気持ちを考え自分の行為を見直したりし、自分も友だちも大切にする態度をさらに高めてほしい、また、共につながり合い支え合うよさをいっそう感じてほしいと願い、本テーマを設定した。

○調査研究の概要

これまで大事に受け継がれてきている地域教材や地域の方からのお話をもとにした同和問題の学習のあり方を見直すとともに、「いじめ」をなくす学習（インターネットによるものを含む）、障害のある方との交流を通して、自己を見つめ、相手の気持ちを考え、共によりよく生活するために自分ができることは何かを考え合える実践につなげる。その際、職員研修を行うとともに、家庭・地域との連携についても工夫を図っていく。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

中野市立日野小学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

8学級（うち特別支援学級 2学級）

○児童生徒数（R. 6. 2. 1）

全児童数：65名

○URL

<https://www.city.nakano.nagano.jp/docs/2022080100065/>

○指定理由

令和2年度、長野県教育委員会が県内の小・中・高等学校等を対象にして行った「学校人権教育実施状況調査」では、「同和教育の実践に対して不安を感じている30歳未満の教員がいる」と答えた学校が8割に上った。そして、「部落差別についての知識が少ない」「同和教育を扱った授業経験がない」と答える30歳未満の教員が過半数を超えるなど、若い教員を中心に、同和問題への取組に大きな課題があることが明らかになった。よって、県教育委員会としては、そのような若い教員に向け、各学校でどのような支援を行っているかの具体例を、研修や広報誌等で積極的に紹介し、令和5年度は「同和問題ミニ講座」をオンライン講座として開設し、同和問題について正しい知識をもつとともに、実践事例について紹介したり、教員同士が情報交換をしたりする場を設けていくことを考えているところである。

今回指定した日野小学校がある中野市は、「同和問題」について小中学校が連携したカリキュラムを擁し、貴重な実践の積み上げを有している地域である。また、人権教育副読本として長野県内で主に活用されている「あけぼの」（長野県同和教育推進協議会出版）や、人権広報誌等で扱われている「草つき穴」をはじめとした、豊富な地域教材を有しており、部落解放連盟の方々など地域で「同和問題」に立ち向かっている方々とのつながりも強い。

よって、本年度日野小学校を指定することで、同和問題を中心とした人権課題への取組を通し、差別を許さない意識を高めていくとともに、豊かに力強く生きた被差別部落の人々の姿にも触れていくことを期待している。また、多様な生き方や考え方に対することにより、自分も友だちも大事にできる児童への変容を追うことで、様々な人権課題

についての指導方法を見出していくことができるを考える。

そして、このような「同和問題」への取組を中心とした日野小学校の実践は、若い教員だけでなく、人権教育に取り組む多くの教員にとって、指導方法等の改善・充実に寄与することができ期待でき、この成果を県内の学校に発信することで取組の広がりも期待できる。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題 1 つに◎印を付与

①子供	<input type="radio"/>
②女性	
③高齢者	
④障害者	<input type="radio"/>
⑤ <u>同和問題</u>	<input checked="" type="radio"/>
⑥ <u>アイヌの人々</u>	
⑦ <u>外国人</u>	
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 <u>ハンセン病患者等</u>	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	<input type="radio"/>
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他 ()	

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

『学び合い』の中で、地域教材、地域人材に出あったり、多様な考え方や生き方に触れたりすることを重ねていったりすることにより、自己を見つめ、他者の考えも尊重できる児童の育成につながっていくのではないか」という仮説に基づき、以下の実践を行っていく。

①人権課題「子供」について

○各学年、年間指導計画に基づき、次の力を育む

- ・自分や他者の生命や人権を尊重し、互いのよさに気付き、認め合う。
- ・いじめに関する資料等から、いじめられる側の苦しさに思いを寄せ、傍観者でいてはいけないことを確認し、いじめは許さないという強い気持ちをもつ。
- ・いじめなどの身近な差別や偏見に気付き、解決しようと自分にできることを考え取り組む。

○「学び合い」の学習、学年を越えた異学年交流活動（縦割り班活動、連学年・姉妹学級交流、児童会活動等）を位置づける。

- ・自分の考えや思いを他者へ伝えること、他者の考えを受け止めること、相互理解を深めること、互いに納得のいく考えを生み出すことなどに意識して取り組む。
- ・そのような過程の中で、コミュニケーション力や人間関係調整力を培っていく。

②人権課題「障害者」について

○障害のある方のお話やパラスポーツ体験、福祉体験等を通して、障害のある方の立場に立って考える態度を養う。

- ・目に見える障害、目に見えない障害など様々な障害があること知り、それぞれの立場から見えること、感じることを知る。
- ・多様性を受け入れ合い、共に生きていこうとする意欲を高める。

③人権課題「同和問題」について

○地域教材、地域人材に学ぶ機会を多く設ける

- ・地域素材・地域教材である「草つき穴」について、地域の方のお話を聞きするだけでなく、主体的に学ぶ機会を設ける。
- ・同和問題に見識の高い地域の方からのお話を聞く機会により、同和問題について正しく知るとともに、地域の方の思いを知り、差別や偏見をなくしていこうとする意欲を高める。
- ・これまで大事に受け継がれてきた資料、人権かるたを積極的に活用していくとともに、活用方法について見直し、検討する。

○職員同士の学びを促進する

- ・授業を行うにあたり職員研修を実施し、職員同士の学びを促進する。

- ・中学校区内の学校と指導計画や実践の様子について共有したり実際に授業参観をしたりし、同和学習のあり方について研修を深める。

④人権課題「インターネットによる人権侵害」について

○SNSの利用について考える機会を設ける

- ・授業を通し、SNSには危険性も潜んでおり、安易な使い方をすると他者に悲しい思いをさせてしまったり自分が悲しい思いをしたりする危険があることを考える。

- ・保護者も交えた講演会にて、利用の仕方についての啓発を行う。

⑤上記の①～④について、以下の点を行なながら取り組む。

○一人一台端末の積極的な活用を行う。

- ・授業において互いの考え方や思いの共有・交流を図るため、また記録の積み上げのために、一人一台端末を活用し、一人一人の学びを尊重した個に応じた支援を促進していく。

○家庭・地域への積極的な発信を行う。

- ・授業参観、学年保護者懇談会、講演会、PTA活動、学校だより・学年だよりなどを通して、家庭にも学習内容を伝え、連携して取り組む。また、地域へも知らせていく。

⑥県教育委員会の市教育委員会・指定校への関わり

○県教育委員会は事業全般等について指導、助言を行う。

○他団体との連携を図り、講師や協力者等の紹介を行う。

○人権教育研修会や教育委員会ホームページ等をとおし、研究実践について県下に紹介する。

○実施方法

①校内で人権教育プロジェクトチームを立ち上げ、人権教育の観点から目指す児童像を検討し、人権教育全体計画、年間指導計画の見直しを学年等で行うとともに、職員研修、授業研究会を年間行事計画に位置付ける。

②児童会活動や縦割り班活動の内容を人権教育の視点からも再検討し、充実を図る。

③地域とのつながりから、コミュニティスクール運営委員会に本事業について説明し、さらなる協力依頼する。特に、児童が地域で活躍できる場についてアドバイスをいただく。

④県教育委員会が実施している「人権教育講師派遣事業」を活用し、人権課題について自分事として考える場面を充実させる。

⑤「同和問題」「インターネットにかかわる問題」「障害者」については、外部講師を招いて職員研修を行い、アドバイスをもらいながら、児童の発達段階や実態に合わせた教材の研究を進める。

⑥講演会、授業参観などは近隣の学校に参加を呼び掛けたり、解放同盟等の関係団体にも参観を呼び掛けたりしていく。

4. 検証・評価・改善・普及

①日々の授業での振り返りや、体験学習等での振り返りの記述の積み上げから、児童の変容を分析する。また、授業者や体験学習等で関わりのあった方からの意見を取り入れ、次への改善点を見つけ出す。

⇒日々の授業を振り返る中で、発達段階に合わせ視覚的に事象をとらえられるように教材を準備したり、一人一人が意見を言いやすいよう少人数グループでの話し合いを取り入れたりした。また、地域教材を扱う前に職員自らが研修する機会を設け、教材に対する共通理解を図った。

②児童、保護者の方からの学校評価アンケートの結果から、児童の変容を分析する。また、コミュニティスクール運営委員会にてアンケートの結果について検討し、成果と課題を明らかにし、成果と課題をまとめ、今後の学習の方向性について検討、共有する。

⇒学校評価アンケートの結果を分析し、職員全体で共有した。また、コミュニティスクール運営委員会で報告したり、保護者への公表を行ったりした。アンケートでは、学校が楽しいと回答する児童が9割を占め、高い割合を示していた。

③全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から、児童の変容を分析し、目指す児童の姿の見直しに生かす。

⇒児童の変容について分析し、成果と課題を共有して、支援や目指す児童の見直しに生かしてきた。

④Q-U等の調査結果を分析し、児童一人一人への指導、学級集団全体指導へ生かす。

⇒担任による分析と各学級の傾向を職員で共有し、来年度への改善点を明らかにしていく。大きな変化のある児童についてその背景にあるものを丁寧に分析し児童理解を深めた。

⑤人権教育授業公開での授業指導者、参加者からの意見をまとめ、授業考察に生かす。

⇒参加者からの感想や意見をもとに、各学級の人権教育への課題を明確にしながら授業の考察に生かしてきた。

⑥学校の実践は、学校だより等で積極的に外部へ発信していく。

⇒実践について学校だよりで発信するとともに、中学校ブロックの人権教育小委員会で報告し、各学校で情報共有するようお願いした。

⑦県教育委員会からの指導、助言を活かし、次年度に生かす。

⇒今後も地域教材を大切にし、活用していくようにご指導をいただいた。今年度の成果と課題をもとに、次年度の計画を作成していく。

5. 人権教育に係る年間指導計画

令和5年度 人権教育年間指導計画 日野小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学行事	・入学式 ・始業式 ・健康診断	・1年生を迎える会 ・なかよし時間	・校内運動会 ・始業式	・終業式	・始業式 ・土曜参観日	・土曜参観日 ・校内音楽会	・給食週間 ・校内音楽会	・なかよし時間 ・読書時間	・終業式	・始業式 ・スキーそり教室	・学習発表会	・6年生を送る会 ・終業式 ・卒業式	
1年	徳	がっこうだいすき	きもちのよいせいかつあかるいあいさつなかよくねよいことわるいこと	みんなじょうかぞくとおはなし	あさがお	いきているつてとりかえっこあしたはえんそく	やめなさいよ二わのことりありがとうがいっぽいおふろそうじ	ジャングルジムくりのみひしゃくぼしわすれていることないかい	はしのうえのおおかみきゅうしょくとうばんこれならできる	にほんのあそびせかいのこともたちちいさなふとん	やればできるんだ「すき」からうまれた「そらまめくん」みんながつかうばしょだから	なわとびかるドみんなみながとう	
他教科との関わり	みんなともだち鬼遊び(ルールを守ってなかよく遊ぼう)	国・生みんなでいさつ(友だちと一緒に歌って表現しよう)(だれとでも明るくあいさつしよう)	音ひらい(学校探検(学校のみんなとなかよくしよう)(だれとでも明るくあいさつしよう)	国・生みんなた、ひらいた(学校のみんなとなかよくしよう)	国・学夏休み(自分のことを話そう、聞く)	国・学休み(みんなで力を合わせたときのひとり一人の気持ちを考えよう)	国・学大きなかぶ(みんなで力を合わせたときのひとり一人の気持ちを考えよう)	国・学くじらぐも(大きな声で読んで、くじらぐにも言いたいことを考えよう)	国・学ずうっと、ずっと、大きだよ(主人公の気持ちを考えて読もう)	国・学なかよし(赤ちゃん(友だとの違い、どうぶつとの違いを考えよう)	国・学わたしがうまれてから(1年間を振りかえろう)	国・学いいこといっぱい1年生(1年間を振りかえろう)	国・学たぬきの糸車(感想を発表しよう)
	二年生になつてあいさつ月間	しょうかいします角がついたかいじゅうぶらんこ	おり紙の名人手紙ぼくのサッカーシューズ	がんばれアヌーラかえってきたホタル	およげないりすさん	なかよしだけどお月さまと口黄色いベンチ	黒ばんがにっこりするかなどうしてうまくいかないのかな	こんなときどうするかな雨ふりどうしようきらきら	生まれるということひかひかかり	お年玉をもらつたけれどおせちのひみつもうすぐお正日本のお米	空色の自転車	よかったです	

←	↔	な		ぐみの木と小鳥	へんしん		おでこのあせ		月	せかれのお米				
2	↔	他 教 科 と の 関 わ り	国ふきのと う (役を決めて 大きな声で読 もう) 團たん生日 しらべ (友だちのた ん生日を知る う) ↔	体操棒 (根気強く取 り組もう) ↔	国スイミー (仲間と協力 することのす ばらしさを読 みとろう) ↔ 團運動会 (力を合わせ て運動しよ う) ↔	体水泳 (自分のめあ てに向かって 泳ぎ、友だち の泳ぎを応援 しよう) ↔	体水泳参観 (自分のめあ てに向かって 泳ぎ、友だち の泳ぎを応援 しよう) ↔	国お手紙 (相手の立場 に立って行動 することのす ばらしさを読 みとろう) ↔	音楽会 (心を一つに 合わせて演奏 しよう) ↔	算かけ算 (友だちと励 まし合って九 九を覚えよ う) ↔	学お祝い会 (2学期それ ぞれ頑張った ことを確認 し、みんなで 喜びあおう) ↔	国大きくな ったぼくわた し (自他の成長 を学び、命の 大切さ、周り の人への感謝 の気持ちを表 そう) ↔	国くわしく 思い出して書 こう (1年を振り 返って成長し たところを見 つめよう) ↔	国スーソの 白い馬 (相手を思う 気持ちの強さ のすばらしさ を読みとろ う) ↔
↔	↔	道 徳	よろしくギフ ト 道夫とぼく あいさつ名人 やめられない ↔	たった一言 道夫とぼく 日曜日の公園 で 持ってあげ る？食べてあ げる？ マリーゴー ^ル ド ↔	友だち屋 生きている仲 間 ヤゴきゅうし ゅつ大作戦 ↔	係の仕事を取 り組むとき に ↔	きまりのない 国 黄金の魚 大切なものは 何ですか ↔	水やり係 目の前は青空 百六さい、お めでとう、ひ いぱあちゃん ↔	とくじーのお まじない かるな遊び なおどから のしつもん 三年元気組 ↔	まわりを見つ めて ふろしき マサラップ ↔	「わたしらし さ」をのばす ため 長なわ大会の 新記録 学校のぶどう ↔	よむし太郎 漢字に思いを こめて ありがとうの 気持ちをこめ て ↔	ヌチヌグスー ジー命の祭り スーパーバテ イシエ物語 ↔	
3	↔	他 教 科 と の 関 わ り	團学校の周 り (自分達の住 んでいる地域 を知ることか ら、大切にす る気持ちを育 てよう) ↔	團運動会 (力を合わせ て練習をし て、運動会を 成功させよ う) ↔	團はたらく 人とわした ちのくらし (いろいろな 人のおかげで 暮らしている ことを知り感 謝しよう) ↔	團水泳 (友達と教え あって、自 分の目あてに向 かって泳ご う) ↔	理昆虫の身体 を調べよう (生き物の命 について考 え合おう) ↔ 團わたしとこ とりとすと (みんな違っ てみんないい ことについて 考え合おう) ↔	理花がさい た後の植物を 調べよう (植物の命に について考 え合おう) ↔ 團音楽会 (心を一つに 合わせて演奏 しよう) ↔	国ちいちゃ んのかげおく り(人の命の 重さについて 考え合おう) ↔ 團音楽会 (心を一つに 合わせて演奏 しよう) ↔	学なかよし カルタ (なかよしカ ルタの標語を 作ろう) ↔ 團音楽会 (心を一つに 合わせて演奏 しよう) ↔	国三年と う げ (朝鮮半島の 農村の雰囲気 を感じよう) ↔ 團三年と う げ (朝鮮半島の 農村の雰囲気 を感じよう) ↔	国つたわる 言葉であらわ そう (相手につた わる文章を書 こう) ↔ 團古い道具 と昔の暮らし (みんなで協 力して調べよ う) ↔	国これがわ たしのわ気に 入り (しょうかい して、感想を 伝え合おう) ↔	国モヂモヂ の木 (思いやりの ある行為につ いて考え合お う) ↔

(わ) :わたしたちの道

日野小学校

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

